

令和2年度 第2回医療・介護合同研修会アンケート結果

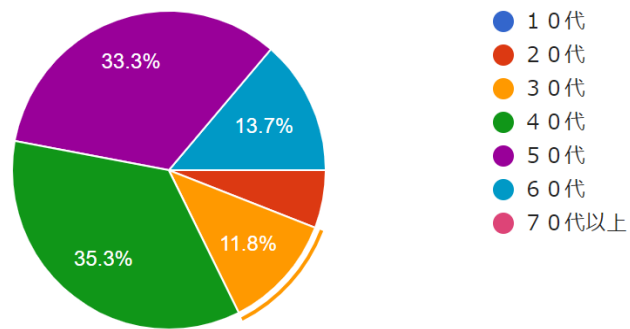
令和2年11月12日18時～19時

Zoon 開催

1 あなた個人について伺います ①年代



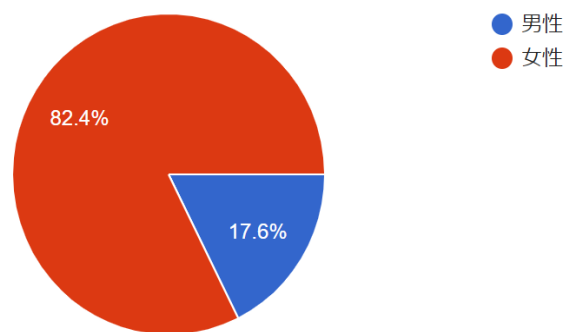
51件の回答



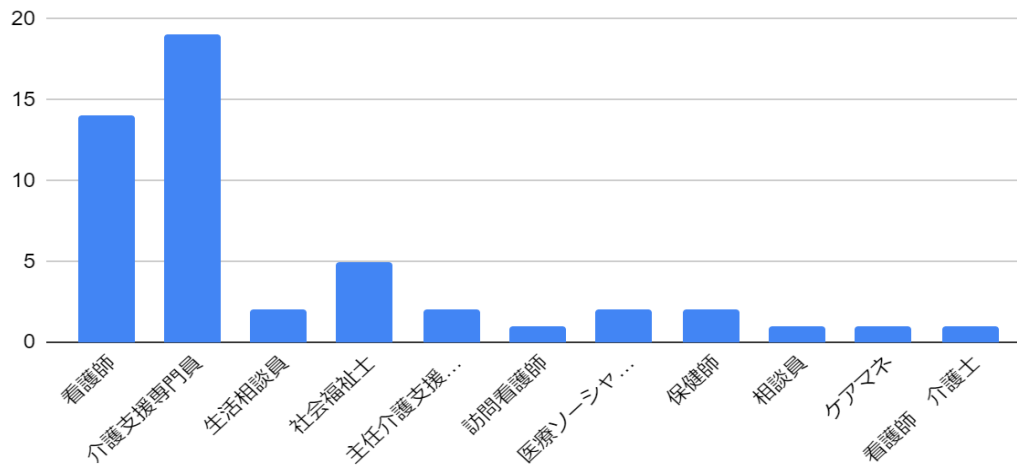
②性別



51件の回答



「③職業」のカウント数



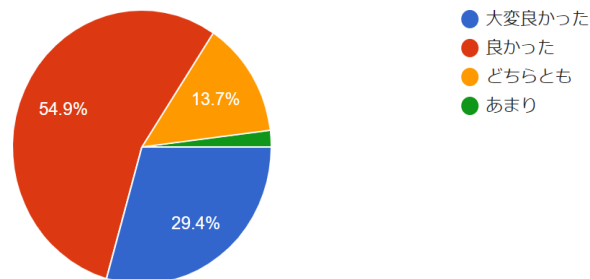
「③職業」のカウント数

※注 自動計算の為、記述内容によって、同じ職種でも別カウントされている場合があります。

2 Zoomによるオンライン研修会について ①全体として・・・



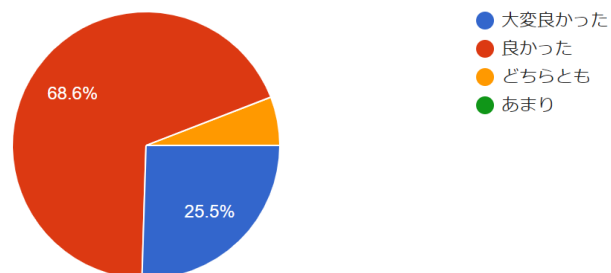
51 件の回答



②内容は？



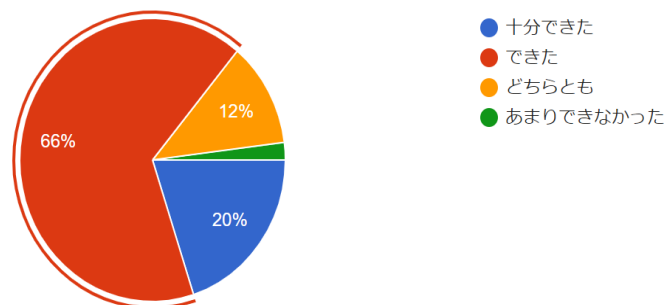
51 件の回答



3 今回の研修をとおりして、「在宅での看取りケア」について考えることができましたか？



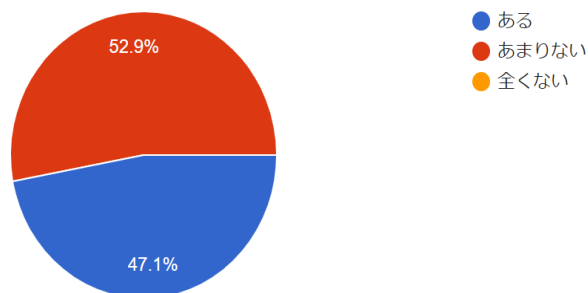
50 件の回答



4 日常の中で「看取りについて」関係他者と情報交換をする機会がありますか



51 件の回答



4で「ある」と回答された方は、具体的にお書きください。(22 件の回答)

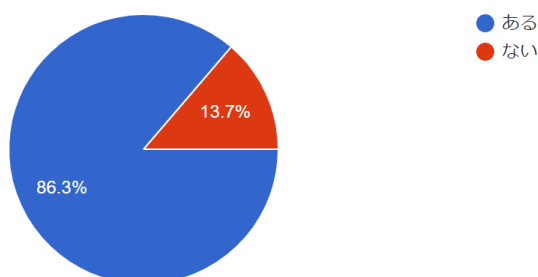
- ・主治医の先生、訪問看護師さんとの情報共有
- ・随時、電子@連絡帳を利用して情報交換しています。
- ・自施設のスタッフ
- ・介護支援専門員や主治医と連携をしています。
- ・特養勤務の為、常に議論しています。
- ・医師と家族の相違など
- ・院内で話し合う
- ・施設職員
- ・家族より包括窓口にて相談を受けた時、病院やクリニック、訪問看護師等と現状況や今後必要なサービス等を確認したり、得た内容を居宅の介護支援専門員と共有してサービスに繋がたりしている。
- ・在宅看取り加算あり

- ・介護支援職も人や在宅医
- ・在宅医や訪問看護、ヘルパー、福祉用具事業者等と
- ・イメージや患者情報を共有する
- ・併設の特養で看取りを行っているため。(在宅での看取りについては機会が少ない)
- ・施設での看取りに関する事
- ・退院前カンファレンス、担当者会議等です。
- ・他の介護支援専門員と話す機会があります。
- ・介護支援専門員
- ・介護支援専門員、包括の方々などと話し合いの機会をもつようになっている
- ・訪問看護
- ・利用者とその家族や自分の家族
- ・日常の会話の中でよく話題にのぼります

5 施設又は在宅で最期を迎えるにあたり、課題となることはありますか



51 件の回答



5で「ある」と回答された方は、具体的にお書きください 40 件の回答

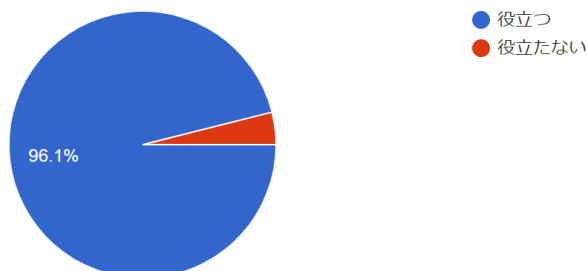
- ・24 時間対応できる訪問の先生が少ない。終末期を受け入れる介護サービスが少ない。
- ・在宅において、訪問診療を行ってくださる医師が限定されてしまう。
- ・家族とのしっかりした話し合い
- ・吸痰などの医療行為があると難しい。
- ・本人や家族の気持ちの理解
- ・病状説明(余命について)が不十分で家族や本人との思いにずれがある時
- ・本人の意向が把握できない
- ・24 時間連携出来る医師の確保
- ・入所・短期等属性に関わらずスムーズに看取りを提供できる体制作り
- ・経験が浅く在宅での看取りに対して連携方法がわかっていない為、多職種の方と話し合いの機会が欲しいと思います。
- ・医療介護の連携がスムーズに行われること

- ・栄養療法どうしたいか
- ・家族や患者の不安がつよい
- ・新規での入所相談の場合、施設にもよりますが(看取りの場合)お断りされることもあります。在宅への看取りでの退院の場合には、急ぎの相談になってしまい、居宅の担当の方にご無理を言うてしまうこともあります。
- ・本人や家族が納得した最期を迎えられるかどうか
- ・看取りの段階 家族の意向 共通理解が難しい 支援者との
- ・医師による死亡確認 介護スタッフ
- ・ご本人の思いを、家族や事業者間でどこまで共有できるか。ACPを意義あるものにする為に、もっと出来る事があるのではないかと感じているものの、実践出来ていない。
- ・制度の中でどれだけのことができるかもそうですが、協力者の確保に時間を要したり、その上で家族・本人の意向に沿った支援ができるかが課題になると思います。
- ・自宅の環境調整やサービスを十分に整える必要がある
- ・家族に覚悟を持ってもらうのが難しい
- ・ご家族と施設側の最期までのイメージの共有とご本人の希望の実現
- ・見取りには考え方に同じものではなく、多くの経験も必要であり、知識とともに、こういった研修や検討会の必要性、顔も見えない関係作りは大切だと思う。
- ・とにかく介護認定を早く出してほしい。また、末期の方は、状態が良くても悪化する事は間違いないので、必要なサービスをスムーズに利用できるように、要介護2以上は出す事を取り決めて欲しい。
- ・在宅時に、徐々に看取りに向かっていく中で最期を迎える場所や方法が上手く見つからない場合の不安がある。
- ・家族の精神的負担の重さ。
- ・医療支援の調整
- ・本人、家族の受け入れ状態が違う場合のすり合わせが難しい。温度差もあり
- ・コロナ禍での看取りについて;家族の面会制限があること、エンゼルケアが一緒に行えないこと、看取りの方とそれ以外の方とのケアや家族対応の線引き
- ・家族支援
- ・家族の覚悟、関係者と家族、本人の思いの共有
- ・家族の負担
- ・家族とのコンセンサス。
- ・本人・家族の思いと現実のありようをどこまで近づけるか。
- ・感染拡大のこの時期、ご家族の希望に十分応えられていくための課題が多い
- ・急な体調変化への対応、家族や医療との連携
- ・在宅医の確保 家族の看取りの揺れ動く心
- ・看取り迄対応してもらえるところが増えるといい

- ・急に家族の意向などが変わる場合あり
- ・どのような最後を迎えるのが最良なのか悩む事があります。

6 今回の研修は、今後に役立ちますか

51 件の回答



7 その他、感想・自由意見等がありましたら、何でもお書きください 19 件の回答

- ・初めての(社外)オンライン研修参加で緊張しましたが、有意義な時間でした。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・★などのマークの説明を事前に教えて置いてほしい。質問内容がわかりづらい。資料をチャットにも添付してほしい。
- ・また多職種での話し合いで学びたいと思います。
- ・話し合う課題を画面に残しておいて欲しいです。
- ・ZOOM を利用しての研修の為、気軽に参加することができました。今後も継続してオンラインでの研修に参加していきたいと感じています。
- ・何度も切断してしまい、メンバーには たいへんご迷惑をおかけしました
- ・うまく接続できなかった
- ・グループワークの限られた時間の中で、質問 3 つは多い。人数も多い。検討内容を予め伝えておいた方が良かったのではと思う。また、zoom に慣れてない方を司会にするのも大変なため、予め zoom に慣れた人(もしくは主催者の身内的な人)に司会をお願いした方がスムーズだったのではないかと思った。
- ・とても参考になるテーマでした。今後も他の事業所と相談ができる環境が整うと良いです。有難うございました。
- ・初めてのオンライン会議でしたが、非常に新鮮でした。
- ・とても参考になるテーマでした。なかなか、他の事業所の方の意見を伺うことがないため、もっと密に情報の共有が出来るような機会があると良いです。有難うございました。
- ・相談支援に ICT を導入することで可能性が広がるのではないかと 最近は考えるようになりました。
- ・ズームが大変です。時間が足りないと感じました。
- ・グループワークの司会難しいです

- ・施設入居されている看取りの方と他の方と比べて、優遇(特別なケアや対応)していることがあれば、教えていただきたいです。
- ・初めてのオンラインのグループワークの練習としては役だったと思います。これがスムーズに展開できるとコロナ禍でも顔の見える連携ができると期待しています。
- ・看取りの時期は、本人様の状態も意向も変わりやすい難しい時期だと改めて感じました。そこにどう向かって行くかが大切だと思いました。
- ・十分な回答ができず申し訳ない気持ちです
- ・ズームでのグループワーク初めてでした。意外に良かったです。時間が少し短かった気がします。

豊川市医師会在宅医療サポートセンター

柳生 逸子